

# 知っておきたい ネット銀行の基礎知識

お客様からのこんな質問に皆さんは答えられますか？

(株)NTTデータ経営研究所  
パートナー  
金融政策コンサルティングユニット長

大野博堂



普通銀行に比べて高い金利を付けていることもあり、ネット銀行に関心を持つお客様が増えています。お客様との面談の中で、ネット銀行について聞かれることもあるでしょう。本企画では、そうした際にも対応できるように、ネット銀行に関する基本知識をQ&A形式で見えていきます。

## Q1

そもそもネット銀行って何？  
どんな特徴があるの？

**A** 広義のネット銀行は大きく二つの形態に分けられます。一つは、実店舗を持たず、スマホやパソコンを利用してインターネット上を中心にサービスを提供する「インターネット専門銀行」です。最近では普通銀行がインターネット支店を設ける例も当たり前になっていますが、本稿ではこれを除きます。もう一つが、コンビニエンスストアが運営母体となつてコンビニ店舗内に独自のATMを設置し、決済業務中心の業務を担う「ATM専門銀行」です。

## 通帳は発行されない

ネット銀行は銀行免許を取得して営業するいわゆる「銀行」ですが、ネット銀行は一般的な銀行の

ように通帳は発行されません。ただし、最近では一般の銀行でも通帳を発行せずに取引が可能な形態を採用したり、別ブランドとして店舗や窓口を持たないネット銀行を立ち上げる動きがあるなど、一般銀行がネット銀行のビジネスモデルに近づいてきた面もあります。

また、ネット銀行では外出時、インターネットが利用できない環境での使い勝手の改善を目的に、キャッシュカードが発行され、コンビニエンスストアなどに設置されたATMで入出金や振込手続きなどを行うことができます。

なお、一般的な銀行は預金保険機構に加入し、万が一の破綻時には1000万円を上限に、預金などが保護されます。ネット銀行も同じく預金保険機構に加入しており、取扱いは普通銀行と全く同じなため、安心して利用できます。

## Q2

専門のネット銀行って、  
現在どのくらいあるの？

### A

金融庁は金融サービスを提供する事業者に免許を与えたり、登録事業者としての登録審査を実施することで、安心安全なサービスが提供される環境を整えています。金融庁のホームページを見ると、「銀行免許一覧」が掲載されており、そこで金融庁が免許を与えた金融機関を確認することができます。

金融庁では「ネット銀行」という区分で業態や免許を分けていますが、都市銀行、信託銀行、地方銀行、第二地方銀行、外国銀行という表現のほか、「その他」という区分を設けています。

なお、信用金庫や信用組合といった協同組織金融機関は業法が異なるため、ここには区分されていません。

したがって、一般的な理解としては、この「その他」に区分され

る金融機関の中に、ネット銀行も含まれることとなります。

## 8つのネット専門銀行が存在

令和3年4月5日時点で、「その他」として区分されているのは計16行となっています。ただし、これには、かつて経営破綻して一次国有化された経緯のある旧長信銀の業務を引き継いだ金融機関や、イオン銀行のようにネット上だけでなく、商業施設内にリアル店舗を構えて営業している金融機関、さらには、ゆうちょ銀行も含まれています。

イオン銀行は金融機関コードとしてはインターネット専門銀行として区分されていますが、商業施設内に店舗を設けているので、こうした銀行を除くと、我が国では8つのネット専門銀行が存在すると定義することができます。

## Q3

ネット銀行って預金金利が高いイメージ。  
なぜ高い金利が付けられるの？

### A

インターネット上で営業することで、店舗や窓口を原則必要としないため、ネット銀行が提示する預金金利は一般の銀行に比べて高い傾向にあります。

ネット銀行は店舗を持たないことで、固定費が一般の銀行に比べて低くどまります。また、店舗を持たないため、渉外担当者などのフロント人材や、管理や監査(再鑑)に要するミドルオフィス向け人材を店舗に配置する必要もありません。ただし、あくまで金融機関なので、本社機能はバックオフィス業務を中心に相応の要員が必要なのは言うまでもありません。

なお、金融機関として必要な基盤ともなる情報システムは、営業店を抱えないことから比較的スリムな管理機能に特化している一方、サイバー攻撃やシステム障害に備えた安全対策を中心に、必要なコ

ストを投じているようです。

## 様々な工夫で高金利を実現

また、預金通帳を発行しないため、通帳発行にともなう印紙税相当額の負担(通帳発行1件あたり1000円超)から解放される一方、利用者にキャッシュカードを発行している点は一般の銀行と変わりません。

他方、一般銀行が営業店の店頭などで受付を行う本人確認手続きについては、ネット銀行は郵送やネット上で受付・審査を行うことになるので、これに向けた独自のシステムの導入や慎重なチェック機能の組み込みが欠かせません。

ネット銀行では、こうした組織や態勢面での様々な工夫を重ねた結果、現時点では一般的な銀行よりも有利な預金金利を提示できていると言えましよう。

## Q4

### ネット銀行はどんな商品を 取り扱っているの？

**A** ネット銀行では、無店舗営業の強味を生かした商品に特化し、金融サービスを提供しています。その一つがカードローンです。スマホやパソコン上で申し込みで、審査結果がメールで確認でき、さらには最短翌日にも融資が可能、といった面をアピールしており、複数のネット銀行がカードローンに進出しています。

ネット銀行は通帳を発行しない代わりに、キャッシュカードを発行することで利便性を提供しています。そこで、キャッシュカードを利用したVISAデビットサービスを取り扱うネット銀行も存在します。VISAデビットサービスでは、キャッシュカード一体型のほか、カードを発行しない形態での対応が可能なネット銀行もあります（バーチャルカード）。また、一般の銀行のように、住

## Q5

### 預金の高金利以外で、 ネット銀行と取引するメリットは？

**A** ネット銀行は営業店を持たない代わりに、預金金利の高めの提示が可能だけでなく、様々なメリットを利用者に訴求しています。その一つが金融取引に関する手数料の低さです。

例えば、今年に入ってから、コンビニATMなどの利用時に利用者が支払う手数料について、大手銀行の一部が引き上げを行うと発表して話題になりました。これは、一般の銀行がコンビニATMの運営元（ATM専業銀行）に支払う手数料負担に苦しみ始めたためと言えるでしょう。

また、マイレージサービスという形で、金融商品取引の回数や預金残高、給与振り込み口座への指定の有無などに応じて、出金や振込手数料の低廉化メカニズムを提供してきた大手銀行であっても、最近では徐々にこの割引基準のハ

ドルを引き上げつつあるのが実態です。

#### 手数料で普通銀行と差別化

こうした中、ネット銀行は身軽な経営資源を武器に、手数料体系において、一般の銀行との差別化を図る戦略をとる例が目立っています。

楽天銀行のケースでは、会員ステージを預金残高などに応じて「ベーシック」「アドバンスト」「プレミアム」「VIP」「スーパーVIP」の5つに分類しています。

例えば、VIP会員は預金残高100万円以上、金融取引20回以上といった場合に適用されます。適用されると、ATM手数料が毎月5回まで無料、他行振込手数料も月に3回まで無料となるほか、楽天スーパーポイントも3倍得ることができるようになります。

## Q6

### ネットでの取引って、 セキュリティが心配。大丈夫？

**A** 昨今我が国では、事業会社はもとより政府機関においても、外部からのサイバー攻撃の脅威に晒されています。これは金融機関といえども例外ではありません。

もちろん、金融機関では、金融庁や日本銀行からの指導に基づき、サイバーセキュリティの高度化に向けた取り組みを行っています。攻撃者の手口は年々高度化・複雑化しており、完全な防御態勢を構築するのは簡単ではありません。

金融庁では、各金融機関の脆弱性評価を実施したり、水平レビューといった横断的な点検を行った際に得られた情報を適宜、金融機関に提供し、注意喚起を促すなど、「銀行」全体の対応態勢を強化しよう努めています。

したがって、普通の銀行は安全で、ネット銀行は危ない、といっ

た一律の見方は正しくなく、個々の金融機関の取組みによる対応差が存在するにとどまる、といった評価を行うべきでしょう。

#### 最後は自分次第

それよりも最近目立つのは、利用者がSNSやメッセージなどを通じて攻撃者からの不正アクセスに遭い、敵が用意した偽のログイン画面などに誘導され、「自ら進んで」IDやパスワードを攻撃者に漏らしてしまうケースです。

金融機関がどんなに高度なメカニズムを提供したとしても、利用者のリテラシーが低ければ、敵の攻撃を排除することはできないのです。利用者としては、こうした攻撃者の攻撃パターンなどにも注意し、自らのIDやパスワードを入力する際には細心の注意を払うことが肝要なのです。

## Q7

### 実店舗がないけど、手続きなどで困った ときのフォローはどうなっているの？

**A** ネット銀行の特徴は、原則として営業店を有しないことにあります。その結果として身軽な経営が可能となり、利用者には有利な預金金利や、低い手数料体系の提示を可能としています。

ただし、その分、利用者からの問い合わせ窓口をネット上で用意するほか、有人才ペレータなどを活用したコールセンターによる対応態勢を構築しています。

#### 取引で対応時間は異なる

ネット銀行の取引は24時間可能とされていますが、問い合わせ対応はこの限りではないことに注意が必要です。例えば、あるネット銀行では、有人才ペレータによる問い合わせは、住宅ローンの場合、平日は午前9時から午後6時、土日祝日は午前9時から午後5時、さらにカードローンの場合、平日

午前9時から午後6時に限定しています。

ただし、キャッシュカードの紛失や取得のほか、急に発生しがちな相続手続きに関する相談といった、急を要する問い合わせについてはみ24時間365日の態勢で有人才ペレータの専用問い合わせ窓口を開設しています。

なお、ネット取引に欠かせないログインや各種認証に迷った場合など、こうした一般的な相談業務は平日午前9時から午後5時に限定されています。

このように、ネット銀行は24時間365日取引が可能であることをアピールする一方、すべての問い合わせに常に応じる態勢は採っていないため、各ネット銀行が公表する条件や、取引に際して交付される各種規約などを改めて点検してみてください。

## 知っておきたい ネット銀行の基礎知識

知っておきたい  
ネット銀行の基礎知識



**A** 最近では取扱い商品が絞りつつも、土日も営業する金融機関の営業店も出てきましたが、多くの銀行は、平日9時から15時までの営業にとどまり、土日や祝祭日は休業なのが一般的です。そのため、平日勤めの方は、なかなか金融機関の店舗に足を運ぶことができないのが実情でしょう。

その点、ネット銀行の特徴は、24時間いつでも取引が可能な点にあります。そのため、毎日仕事にいそしみ、休みもないような人は、

ネット銀行の想定顧客として合致するでしょう。他方、インターネットを利用するため、スマホやパソコンの使い方に慣れていない方は、必ずしもネット銀行は使い勝手が良いとは言えません。

**周辺に店舗等がない人に…**

また、一般の銀行ではインターネットバンキングに申し込んだり、あるいは最近流行りのアプリバンキングなどの新たなサービスを利用しない限り、すぐに取引明細を確認することができず、また、店舗やATMに足を運ばないと通帳に記帳することができません。

ネット銀行は、通帳が発行されない代わりに、ネット上で取引明細を24時間いつでも確認することができます。そのため、周辺に店舗やATMが存在しないという方にもネット銀行はオススメです。

Q8

何か特徴的なサービスを行っている  
ネット銀行があったら紹介してほしい。

**A** 住信SBIネット銀行では、三井住友信託銀行と、証券取引に強いSBIホールディングスによる運営がなされています。そこで同行では、ネット上のアカウントで、自身の預金口座残高と証券取引口座の残高を一目で確認可能な画面を提供しています。

銀行で、au携帯の利用やサービスの利用に応じてPontaポイントが貯まります。貯まったPontaポイントをauモール内での商品購入に充当できるのもメリットです。

驚きの金利提示も

ソニー銀行では、外貨預金の取引手数料が安価で、取り扱い可能な外貨の種類が豊富なことが特徴です。また、口座開設に際しては、郵送での申し込みのほか、スマホで写真を撮り申請する方法や、キャッシュカードの受け取り時に顔写真付きの本人確認書類を提示する、といった3通りの対応が用意されています。

わかりやすく預金金利を高く設定しているネット銀行といえば、「あおぞら銀行BANK」です。普通預金金利ではなんと0.2%という驚きの金利が提示されるなど、金利そのものに魅力を感じる方も多いことでしょう。

auの携帯電話をお持ちの方は、「auじぶん銀行」が使い勝手が良さそうです。KDDIと三菱UFJ銀行の共同出資によるネット

さらに、ゆうちょ銀行のATMの利用手数料をゼロとしていることも特徴で、頻繁に出張される方などには、どんな田舎に行っても存在するゆうちょ銀行のATM網を無料で利用できることは大きな利点として認知されています。

Q10

ネット銀行を利用するのに  
向いているのはどんな人？

ネット銀行の想定顧客として合致するでしょう。他方、インターネットを利用するため、スマホやパソコンの使い方に慣れていない方は、必ずしもネット銀行は使い勝手が良いとは言えません。

周辺に店舗等がない人に…

また、一般の銀行ではインターネットバンキングに申し込んだり、あるいは最近流行りのアプリバンキングなどの新たなサービスを利用しない限り、すぐに取引明細を確認することができず、また、店舗やATMに足を運ばないと通帳に記帳することができません。

ネット銀行は、通帳が発行されない代わりに、ネット上で取引明細を24時間いつでも確認することができます。そのため、周辺に店舗やATMが存在しないという方にもネット銀行はオススメです。

Q9

なんだかんだ制約が多いイメージがあるが、どんなデメリットがあるの？

**A** まずは店舗や窓口がないことが大きな制約要因です。例えば、高齢者が利用する場合、何らかの理由でネット銀行のサービスが利用できない場合に遭遇した際、金融サービスの提供そのものが受けられなくなるでしょう。こうしたネット銀行を取り巻くデメリットのうち、私たちが留意しておかなければならない大切なポイントを取り上げます。(参考:ソニー銀行公表情報)

引き落としに使えない場合も

①IDやパスワードを忘れたり、一定回数以上入力をミスすると利用できない

インターネットバンキングと同様、ネット銀行の利用には、IDやパスワードを入力することが求められます。したがって、IDやパスワードを忘れてしまうと利用

できなくなります。同様に、複数回連続してIDやパスワードを誤って入力した場合には、アカウントロックという形でアクセスが拒絶されてしまいます。こうしたケースでは、サポートセンターへの連絡などを行い、IDやパスワードの再設定が必要となります。

②システムメンテナンスや障害発生時は利用できない

ネット銀行では、定期的にソフトウェアの最新化作業が実施されます。年末年始やゴールデンウィーク、夜間や早朝に実施されることも多いようです。また、システム障害で一時的にシステムが利用できないケースも予想されます。

③引き落とし口座として指定できない場合がある

公共料金や税金の引き落とし口座として指定できない場合があります。

Q11

ネット銀行を利用する際、  
注意すべきことはある？

**A** 一般の銀行は営業店を構えており、仮にシステム障害や大規模震災でインターネットバンキングサービスが利用できなくなっても、近所にあるATMの利用で現金を引き出すことが可能です。また、さらにATMも利用できなくなっても、近くの営業店に赴けば、店頭での身分証明書やキャッシュカードの提示で、あらかじめ決められた一定額を上限に払い戻しを受けることができます。

しかし、ネット銀行の場合、原則営業店が存在しません。あっても本店だけということが当たり前です。そのため、一般の銀行のような災害時の柔軟な取扱いができない恐れがあります。

災害時のことも考えておく

このときは、全面復旧までかなりの時間を要し、さらに携帯電話のほか固定電話を含めた通信回線が長時間使用不能に陥りました。

また、2019年9月8日から9日にかけて関東地方を襲った台風15号では、10日あまり経っても千葉県の広域で大規模停電が続き、通信インフラも使用できない状況になりました。

このように、我が国は災害大国のため、電気、通信といったインフラが長期間にわたって使用不可となる可能性が否めません。

ネット銀行の場合、銀行そのものに被害はなくとも、利用者との間をつなぐ通信インフラが途絶えることで、結果的に利用者が金融サービスを利用できなくなる恐れがある点には注意が必要です。